

2024-25年度 地区補助金 (DG) によるプロジェクト報告

ラオス障害者-日本研修支援プロジェクト

期間：2024年8月1日～2025年2月28日

場所：ラオスー日本

内容：ラオスの障害者職業訓練施設「ゾンパオワークグループ支援施設」の訓練生3名を日本に招聘し、日本の障害者訓練施設、バリアフリー建築、職場、福祉施設、モノづくりの現場などを視察する機会を提供



事前打ち合わせ 2024年8月 (ラオスナイト・ラオス展参加)



来日2024年2月5日ー11日 (視察の記録)



日本の空港・電車におけるバリアフリー体験

訓練生は日本の空港および鉄道のバリアフリー設備を体験しました。エレベーターやスロープ、車いす対応の改札口や乗降サポートなど、障害者が円滑に移動できる仕組みを実際に確認しました。この体験を通じて、ラオスにおける公共交通機関のアクセシビリティ向上の重要性を認識し、今後の障害者支援に活かす貴重な学びとなりました。



美瑛町のB型事業所「アトリエジョバンニ」を訪問、ハーブティー製造の実態を学びました。さらに、販売店舗である白金パークヒルズを視察し、日本の福祉事業所の生産・販売の仕組みを確認しました。

来日2024年2月5日ー11日（視察の記録）



ゾンパオ障害者施設の商品販売サポート

ゾンパオ障害者施設の訓練生が制作したハンドメイド製品の販売支援を実施しました。販売活動を通じて、訓練生が自身の作品に自信を持ち、経済的自立に向けた第一歩を踏み出す機会となりました。

交流：当クラブ15周年記念例会への参加と意見交換

滞在中、ゾンパオ障害者施設の関係者を当クラブの15周年記念例会に招待し、施設の紹介および活動内容について報告をいただきました。報告では、日本の障害者施設との連携事例として、「ラオスでのお茶の栽培と日本での製品化」についての説明も行われました。また、ラオスの障害者の自立に関する課題について意見交換を行い、現地の現状や支援の必要性について理解を深めました。これを通じて、今後の継続的な奉仕活動の重要性を再認識し、支援のあり方について検討を進める契機となりました。



成果：福祉研修における訓練生の学びと意識の変化

本研修において、訓練生は福祉施設の視察や講義を通じて多くの学びや気づきを得ました。研修中、彼らは得た知識や印象に残った点を詳細にレポートやメモに記録し、積極的に学ぶ姿勢が見られました。また、記録した内容を自国に持ち帰り、今後の活動に活かしたいという強い意思が感じられました。この姿勢は、研修が単なる知識の習得に留まらず、ラオスにおける障害者支援の発展に向けた具体的な行動へとつながることを示しています。本研修を通じて得た学びをもとに、訓練生がリーダーとして自国の障害者支援の仕組みづくりに貢献することが期待されます。

